

主な記事

2・3面 自治労第98回定期大会  
2024関東甲地区自治体職員等スポーツ大会 結果  
連載 私たちが働きやすい職場づくりを、「岸まきこ」とともに◎ 都市交評  
コラム 自治研ってなに?~もうすぐしまね自治研~  
4面 私のおすすめ (八王子市職員組合 執行委員長 渡辺 隼)  
原水禁世界大会 (広島・長崎)

# 自治労東京

千代田区飯田橋3丁目9番3号  
SKプラザ4階  
電話 03-3556-3755  
自治労東京都本部発行  
企画 総務局  
責任者 松村 誠治  
編集者 須崎 崇文  
1部10円(但し組合員は組合費を含む)

## 人事院、32年振り2%を超える引き上げを勧告 月例給(2.76%、11,183円)、一時金0.10月



▲7.24公務員連絡会人勤期中央行動の様子

「社会と公務の変化に対応した給与制度の整備」については、2025年度からの実施となる。まず、地域手当は、支給割合および支給地区区分が変更となる。支給割合は現在7区分(20%・16%・15%・12%・10%・6%・3%)となっているが、5区分(20%・16%・12%・8%・4%)に再

編成し、4ポイントの等間隔となる。支給地区区分については、これまで市町村単位で区分されていたが、隣接する自治体との不均衡などを指摘する声もあつたことから都道府県単位に広域化される。ただし、民間賃金水準が他の地域と比べて高い東京都特別区については個別に設定される。地域手当に係る今回の勧告では、東京都は16%、特別区は20%となっている。な

8月8日、人事院は国家公務員の給与に関する勧告を行い、月例給を2.76%、11,183円、一時金は、0.10月分(再任用職員は0.05月分)の引き上げ勧告を行った。3年連続で月例給、一時金が引き上げられる内容となり、組合員の期待に一定応えた形と言える。また、地域手当がこれまでの市町村単位から都道府県単位に広域化され、配偶者に係る扶養手当が廃止となるなど、諸手当に関する勧告も行われたが、国の見直しを自治体に一律に当てはめるのではなく、「地方の実態と自主性を尊重した給与制度」が実現されるよう自治労として取り組んでいく。

**地域手当**  
**東京都16%・特別区20%**  
**扶養手当**  
**配偶者手当廃止、子の配分増**



▲都本部勧告学習会で講演する本部林総合労働局長

人事院勧告が出されたことを受け、8月14日、都本部は自治労本部の林鉄兵衛総合労働局長を講師として、人事院勧告に関する学習会をSKホールで開催した。林総合労働局長は上記で触れた勧告内容を説明しながら、自治労の問題意識として「若年層と中高年層の間で賃金改定率に10倍の差があり、民間の結果を反映し

### 都本部人事院勧告学習会を開催 地域の实情に合わせた制度求める

たものとはいえ大きすぎることは問題だ。また、配偶者の扶養手当廃止については民間地場の実態を反映したものと見え、自治労としては反対である。さらに再任用職員の手当については扶養手当が引き続き支給対象外となっているなど課題が残る」としたうえで、「今回の勧告は人材確保や組織パフォーマンスの向上等の課題を背景に出されたものであるが、地域の实情は様々であるから、今回の国の見直しを一律に地方自治体に適用するのではなく、『地方の実態と自主性を尊重した給与制度』を実現できるように取り組んでいく」と述べた。

今後、今回の勧告内容を踏まえ東京都および特別区の人事委員会から勧告がされることとなる。まずは民間春闘の結果を反映した公上げを求めるとともに、すべての自治体で常勤職員だけでなく再任用職員、会計年度任用職員を含めて、4月に遡っての月例給および一時金の引き上げ、給与水準の改善を求めていく必要がある。また、地方自治法の改正により会計年度任用職員への勤労手当が支給可能となっていることから、常勤職員と同月数の支給が確実に実現できるように条例化の取り組みを進めていくことが必要だ。

お、実施時期は2025年度から段階的に実施される。また、人事院の報告によると、地域手当に関する今後の見直しとして、①これまで10年ごとに見直すこととされてきたものの、民間賃金を国家公務員給与に反映させるには長すぎるとの意見を踏まえ、より短い期間で見直ししていく、②最大20%という支給割合の差が過大との指摘があり、支給割合の差のあり方について検討していく、とされているため、今後の議論を注視する必要がある。

次に、扶養手当については、配偶者に係る手当を廃止し、それを原資に子に係る扶養手当を現行の10,000円から13,000円に引き上げる。これらは2025年度から段階的に対応が図られる。

そして再任用職員については、地域をまたぐ異動、円滑な配置等のため、地域手当の異動保障や住居手当等が一般の職員と同様に支給対象とされた。しかし、扶養手当は支給対象とされず、一時金についても大きな格差が生じたままとなっている。

自治労組織内候補者

地方・地域を「きし」快晴!

自治労東京都本部は、第49回中央委員会において第27回参議院議員選挙全国比例区における自治労組織内候補予定者に「岸まきこ」(現参議院議員)の推薦を決定しました。

**岸まきこ**

**東奔西走**

猛烈な暑さが続いている。ニュースでも災害級の暑さだとか、史上最も暑い○○○というような言葉をよく耳にする。一方で猛暑のニュースは気候変動や温暖化に関連付けて報道されることが少ないように感じる。報道が原因かわからないが、日本人は温暖化に対する意識が薄いように感じる。温暖化の弊害は熱による健康問題だけでなく多岐にわたる。最近のコメ不足も昨年の猛暑による米の品質不良が原因の一つだ。温暖化により今後引き起こされるであろうより深刻な食糧問題は人々の意識に大きな変化を与えるかもしれない。仮に人々の意識が変わったとして、その時に温暖化対策をしてもすでに遅いかもしれない。

▼温暖化はあと数年で「臨界点」を迎えるという。人類が温暖化対策を行ったとしても勝手に気温が上昇していくというのだ。危機感を持ったほうがいい。温暖化対策を求める環境活動が平和運動と並んで組合の重要な取り組みに位置付けられる日もそう遠くないだろう。(岡崎)



### 映画

シネマジャーナル  
編集者  
穂曇 萌

## 『オキナワより愛を込めて』 監督・砂入博史

醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ  
沖縄を拠点として活動する写真家の石川真生さんを追ったドキュメンタリー。

1971年11月10日、米軍基地を残したまま日本復帰を取り決めた沖縄返還協定をめぐり、沖縄の世論は過熱していた。セネストが起り、労働者と機動隊の衝突は警察官一人が亡くなる事件に発展した。

当時10代だった石川真生さんは、この現場を間近で見た。

写真家、東松照明のワイフ、当時の生活を収めた3冊の写真集「熱き日々inキャノンハンセン!!」(1982)、「熱き日々inオキナワ」(2013)、「赤花アカバナー 沖縄の女」(2017)を手に、半世紀たった今、当時の記憶を回想する。写真家としての石川真生さんのルーツを辿りながら、この映画を企画した。



8月31日(土)~  
東京・シアター・イメージフォーラム  
☎03-5766-0114

「8月6日8時15分、広島「8月9日11時2分、長崎」に原子爆弾が投下され、それまでの日常、そして大切な人が一瞬にして消え去った時刻である。

あれから79回目の夏、原水爆禁止世界大会が広島、長崎で開催され、全国から広島には2,200人、長崎には1,000人が集まった。

大会では全体会や多くの分科会を通して当時の実相に触れ、核廃絶、脱原発の現状を学習するとともに、27代目となる高校生平和大使、高校生1万人署名活動メンバーの決意を全体で共有した。

ある分科会で初めて原水爆禁止世界大会に参加した人に拳手を求めると、半数以上に及んでいた。核廃絶を求める声が続々と広がり、若い世代にもつながっていくことは非常に歓迎すべきことである。しかし、日本も含めて世界的な状況はどうだろうか。2021年に発効した核兵器禁止条約の批准国は70の国と地域に及んでいるが、アメリカやロシアなどの核保有国、日本のように「核の傘の下」にいる国の名はない。また、近年では核保有国が大型核兵器から小型の「使用できる核兵器」開発にシフトし、一層危険な状況に陥っている。

核保有国は異口同音に「核の保有は抑止力である」と主張するが、核兵器のみならず、すべての軍備が単なる抑止力となったことは歴史上例がなく、詭弁にすぎない。

戦後79年、被爆者の平均年齢は85歳を超え、戦後生まれた人の割合は総人口比で90%に及ぶ。核兵器、そして戦争の悲惨さを体験に基づき語れる人は日々少なくなっている。

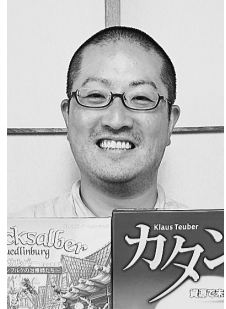
組合員の皆さんは戦争を体験としては語ることはできない年代だ。しかし、核兵器、そして戦争の実相に触れ、語り継いでいくことはできる。そして、自身の得た知識をもとに、ひとつひとつの戦禍に包まれた場合にどんな惨状が待ち受けているかを想像することもできる。平和を維持するために知識と想像力が必要であり、最大の敵は知識と想像力の欠如である。まずは79年前の悲惨な状況を学び、自身の日常と重ね合わせ、想像を膨らませてほしい。

### 私のおすすめ

## 『また明日あなたと遊びたい』

八王子市職員組合 執行委員長

わたなべ じゅん  
渡辺 隼



出身県：神奈川県  
組合歴：2017年~執行委員長  
2019年~副執行委員長  
2023年~執行委員長

ウマ娘を語るには紙面が足りず、横浜DeNAベイスターズを語るには感情の制御が利かず。ならば自称普及啓発大使として、ここ数年で一番夢中になっている「ボードゲーム」について、この場を借りて語りたい。

ここでいうボードゲームは、「ドイツを中心とした、いわゆる「ユーロゲーム」だ。私自身は大学生時代に遊んだ「ボードゲーム」に遊ぶというよりも、遊ぶための街や道を建設し、誰よりも早く島を制することを目的としたゲームで、遊ぶたびに違う局面が訪れるにもかかわらず、運・戦略・交渉のバランスが良く、大人も

子どもも楽しめることから、ユーロゲームというジャンルを世に知らしめたゲームの代表格とされている。初めて遊んだとき、脳の中の今まで使ったことがない所が熱を帯びる感覚が今でも忘れられない。近年は普及啓発活動として、八王子市役所内にボードゲーム同好会を立ち上げた。

他方、高校時代の仲間にはカタンを広め、定期的な会、仲間自身が私抜きで各種大会に参加したり、強化合宿を行ったりと仲間の生活にも変化が起ってしまった。

表題の「また明日あなたと遊びたい」は、カタンの作者クラウス・トイバー氏の言葉で、カタンのルールの根幹とされている。遊んだ瞬間だけでなく、また次も一緒に遊びたいと皆が思えるよう、勝者も敗者もお互いに敬意をもって遊ぶことの大切さを表したものだと感じている。遊びだけでなく、人生においても通じる言葉ではないながら、家にあるボードゲームを眺めているが、まだ小さな娘にも「将来あなたと遊びたい」と言ってもらえるよう、いろいろと頑張っていきたい。



▲長崎大会の様子。全国から平和記念式典に合わせ1,000人が結集した。



▲デモ行進の様子。猛暑の中、平和のシュプレヒコールを上げた

# 岸まきこ

立憲民主党  
The Constitutional Democratic Party of Japan  
参議院議員(自治労組織内議員)

声を力に、一歩前へ

自治労の政策要求を  
ともに実現しよう!

岸まきこ 公式サイト  
kishimakiko.com/  
岸まきこ 検索

自治労は、第27回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」現参議院議員の擁立を決定しました。

岸まきこ(岸真紀子)プロフィール  
1976年北海道岩見沢市(旧栗沢町)生まれ。94年旧栗沢町役場入職(現岩見沢市)。2013年から自治労中央執行委員。19年第25回参院選(全国比例区)で初当選。現職に至る。